

埼玉県大会における新型コロナウイルス感染症 拡大予防ガイドライン及び競技運営事項

埼玉県ソフトボール協会

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い全国大会、関東大会等中止となっているなか、緊急事態宣言が解除され、少しずつ施設の再開も始まり各事業が実施されております。もちろん国内でも感染症は減少しているとはいえまだまだ油断をすることは出来ない状況にあります。本ガイドラインは（公財）日本ソフトボール協会作成の「ソフトボール活動の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」をもとに作成しました。また、感染防止のガイドラインにつきましても、大会開催地のガイドラインを優先するもので、最新の情報を確認しながら取り組みをお願い申し上げます。

2. 交流大会共通留意事項

- (1) 三つの密（密閉・密集・密接）の発生が原則想定されないこと
（人と人との間隔はできるかぎり 2mを目やすとする）
- (2) 大声での発生、歌唱や声援、又は接近した距離での会話等が原則想定されないこと
- (3) その他、必要に応じて、適切な感染防止対策が講じられていること
 - ① 入場者の制限や誘導
 - ② 手指の消毒設備
 - ③ マスクの着用
 - ④ 室内の換気等
- (4) 大会を開催する自治体の方針に従うことを前提とすること
- (5) 参加者全員へ本ガイドラインの周知徹底を図ること
- (6) 大会関係者から感染者が出た場合の競技団体の責務の重大性を考え、チーム関係者、役員・スタッフ一同及び大会参加者で感染拡大防止のためのガイドラインを遵守すること
- (7) 大会会場への関係者の移動は、極力公共交通機関を利用しないこと
- (8) 大会を開催する場合は、監督会議、開会式、閉会式、懇親会等人が密集するイベントは実施しない

3. 大会に向けた留意事項

- (1) 大会関係者（参加チーム、競技役員、運営スタッフ）への対応
 - ① 入場制限
 - a) 競技運営に直接携わらない関係者の来場を控える
 - b) 来賓の方の入場は遠慮してもらう

d)運営スタッフ（審判員・記録員・競技員等）の人数についても必要最低限に止める

e)チーム関係者の来場人数についても、ベンチ入りメンバー以外を最小限に止める

②体調管理

参加当日の朝に体調不良（発熱、倦怠感など）である関係者は、来場を禁止する

③感染予防

a)マスク着用の徹底（プレー中の選手は例外）

b)入場の際に消毒液での手洗いを徹底する

c)会場への移動は、原則バスや車移動とし車内の換気を徹底する

d)タオル・ペットボトル・コップ等の共用は避ける

h)ゴミは各自が責任をもって持ち帰る

(2)観戦者への対応

①観戦者に発熱（37.5度以上）、咳、倦怠感、咽頭痛などの症状が見られる場合には観戦を遠慮してもらう

②マスク着用の呼びかけを行う

③本部テントに消毒液の設置

④観戦者（家族を除く）に間隔を空けて観戦をしてもらう

⑤応援方法については、接触飛沫リスクを避けた（肩組む、メガホン、大声、タオル等）応援をする

⑥喫煙所を設置する場合は「三つの密」を避ける措置を施す

(3)競技上の留意点

①バット、ヘルメット、グローブ、打撃用手袋、ロジンバックなどは可能な限り他選手との共用を回避し、共用せざるを得ない場合、こまめに消毒を行う

②唾を吐く行為を禁止する

③選手、特に投手は指を舐めない

④握手、ハイタッチ、グータッチ、ハグなど身体的接触を避ける

⑤グラウンド内での円陣は控える

⑥ベンチ内での選手間の距離は、出来るだけ間隔を空ける（2m、最低1m）

⑦ベンチ内には各チームが消毒液を用意する

⑧ベンチ内から声援や指示を出す場合は、対人距離に注意する

⑨試合前の打順表最終確認の際は、可能な限りお互いの距離を取り、監督、審判員の握手は行わない

⑩球審は試合中飛沫防止措置（マスク、飛沫防止シート等）を講ずる

⑪球審は捕手に触れてはいけない

⑫監督、コーチが審判員に近づく際は最低2mの距離を保つ

⑬試合開始時の整列及び礼は、球審の集合準備の合図で両チームがベンチ前に整列し、

その場で礼をして行う。試合終了時も同様の形態とする

⑭タオル・ペットボトル・コップ等の共用は避ける

(4) その他の対応

①大会関係者より感染者が発生した場合は、直ちにホームページ等で情報を開示する

②各参加チーム（全選手・監督・コーチ・引率者）は、別紙「連絡先及び健康状態申告書」を受付時に大会本部に提出する